

## 第5回大阪府四條畷市未来技術地域実装協議会 議事概要

日時:令和5年11月27日(月)13時~14時

場所:四條畷市立グリーンホール田原 「なるなるホール」

### 議事概要

事務局から出席者紹介

主催者挨拶

(四條畷市長 東 修平)

本日はお忙しいなか、皆様にご参加いただきまして誠にありがとうございます。日頃から市政運営に対しまして、様々な局面でお力添えいただいておりますことをこの場をお借りいたしまして厚くお礼申し上げます。

平成29年度から四條畷市では、JRが走っている西部地域と9000人が暮らす田原地域が地理的特性上大きく異なっており、田原地域の良さがありながらも抱えている課題をもつことから、より住みやすいまちづくりをしていきたいという思いで、田原地域の活性化という問題について取り組んでいます。住民の皆様のご意見をいただきながら、地域住民が主体で行っていくこと、行政としてやっていかなければならないことを検討し、行政としては未来技術を活用していくことが必要と考え、令和元年度に、内閣府に社会技術実装事業を田原支所から申請し、令和2年度から採択していただき取り組んでいます。

市民の皆様のアンケートの結果から、交通、買い物、医療等の課題があがり、根源的にはすべて交通に由来すると捉え、自動運転技術を中心に、関係行政諸機関、民間企業の皆様のお力を借りながら実証実験を重ね、今年度車種を選定し、購入する段階に至りました。長くかかりましたが、いよいよ次年度から地域内を走り始めます。

重要な点は、あくまで、この田原地域が暮らしやすいまちになるための手段としての未来技術であるということです。関係諸機関の皆様にはそれぞれのご知見をいただきながら、この9000人が暮らすまちがいま以上に住みやすくなるためにお力添えをお願い申し上げますとともに、お忙しい中ご臨席いただいている皆様にお礼を申し上げまして、開会のあいさつと代えさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

現地支援責任者 挨拶

(近畿地方整備局大阪国道事務所 七澤所長)

ただいまご紹介いただきました大阪国道事務所近畿地方整備局事務所長の七澤と申します。ご参加の皆様におかれましては、日頃より国土交通行政に多大なるご理解、ご支援をいただきお礼を申し上げます。この事業に関しまして、市長からお話がありました通り、令和2年度に内閣府の未来技術社会実装事業に採択され、自動運転技術などの実証実験、検証等を四條畷市で地域の皆様のご意見をいただきながら、着実に取り組まれていらっしゃる所でございます。今年度におきましては、導入車両の選定等を進められ、実用化が迫ってきたと実感しております。実証から実現に向け、この事業は来年度が最終年度となりますので、確実に実用化が進められるよう私どもも、現地責任者として、これからの実用化に向けた取り組みについて、しっかりと支援していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(1) 令和5年度事業進捗状況について(報告)

- ・ 質問なし

(2) 令和6年度事業における

- ・ 未利用地の活用について、ワークショップは今後もやっていただけるのか
- ・ 出来るだけたくさんの方に参加いただきたいため、ぜひ複数回やっていただきたい(今年度事業は3回を1セットとしたワークショップ)
- ・ 今回とは違う参加者で同様のワークショップを開催してほしい
- ・ 参加者が固定化されている傾向があるため、たくさんの方の意見を反映できるように地域に埋もれた声を拾っていただきたい
  - 来年度はワークショップとしては行わず、カフェミーティングの中で未利用地について話し合いをもつ。まちづくりについては、数十年先の未来を見据えていることから、中学生にワークショップに入ってもらったことは新しい形となったと考えている。まだ参画していただけていない層の意見をどう取り入れていくかは今後の課題
- ・ ワorkshopでは参加した中学生(生徒会)の意見のほかに、事前にアンケートを取っていただき非常にたくさんの方の意見を聞くことができた。中学生の取り組みを参考に、様々な方の声を拾えるようにしていただきたい
  - 中学生のご意見、子育て世代、働いている世代、高齢者など様々な世代から意見をいただき地域を盛り上げ、まちづくりを行っていきたい。市の方向性として、集中的に分野を絞って予算をつけている総合戦略の中で、けいはんな学研区域、田原地域における自動運転を起点とした地域主体のまちづくりがある。より住みやすいまちにいくために交通利便性の改善、未利用地の活用について議論している。未来技術を活用した地域主体のまちづくりとして内閣府に提出している内容であり、この場で議論をさせていただいている
- ・ 飯盛霊園組合として、来年度、敷地内の公園の使い方など地域に開かれた霊園をめざしてまいりますので連携を取れることがあれば協力していきたい
  - 田原地域の活性化に向けて一緒に取り組みを進めていければと考えている
- ・ 自動運転のルートについて、旧村の活性化の観点から、商業地とグリーンホール田原を結ぶほかに、地域の端から公民館など地域で集まる場所をつなぐルートについても検討をしていただきたい
  - 実装のルートは今後、地域の皆様の意見をいただきながら話し合って決めていく